

若者が行動を起こす

やまさき しゅう
山崎 志夢 さん (19歳)

松山大学 経営学部
経営学科
(周防大島高校出身)



#特殊な学生生活

私は現在大学2年生で、愛媛県でひとり暮らしをしています。周防大島に住んでいた私とはまるで違う学生生活を送っていた愛媛県の友達の話の聞いたりすると、自分が送ってきた学生生活は特殊なんだと感じます。心優しい地域の人との交流や、学校終わりに海へ行ったり、駄菓子屋で友達とお菓子を食べたりした思い出は貴重なものです。

#島を変える若者をつくる

また、私はずっと周防大島で学生生活を送ってきたので、一時期、島外の世界を知りたい、もっと色んな刺激を得たいと思っていました。きっと同じ思いをしている学生は少なくないと思います。そんな人達に刺激を与えられるコミュニティを、大学生活で培ってきた能力で周防大島につくりたいです。なぜなら、そのコミュニティを通して得た刺激が、島を変えるための若者をつくる、橋渡しの役割を果たすと考えからです。

#島と言ったらコレ！

現在、趣味で楽曲をパソコンで制作しています。自分で作ったモノを試したいという意味でも、音楽イベントを開催したいと考えています。音楽が嫌いな人はいないし、その音楽を通じて、あらゆる人々が繋がりをもてたら、何かしらのきっかけになると考えます。また、フラダンスを交えたり、地元の飲食店の出店などを構えたりして、規模の大きいイベントにし、魅力を伝えつつ、島といったらコレ！みたいなものを形にできたら、周防大島を知ってくれる人も増えるでしょう。

#島に思い入れのある若者が行動

そのためには、仲間を集め、組織を作り、導く必要があります。私が大学で学んでいる経営学はそこで生きてくると考えます。大学ではマーケティングを専攻しており、その知識をイベントのプロモーション活動などに活かしていきたいです。周防大島に思い入れのある若者が行動を起こせば、きっと島は良い方向に向かうと考えます。

人口問題への取り組み

はまおか まさき
濱岡 雅生 さん (19歳)

中央大学 経済学部
経済情報システム学科
(高水高校出身)



#周防大島が好き

私はこの春、進学のため上京しました。時折、周防大島での日常を思い出すことがあります。そのきっかけは、たまに見る緑豊かな自然を島の風景に重ねていることに気が付いたときです。それと同時に私が周防大島に対して持っているイメージは自然豊かということであり、自然と人情に溢れる周防大島が好きなことに改めて気付かされました。

#相手に対する思いやりを思い出す場所

東京では、知らない人に挨拶する人はあまり居ないけれど、周防大島では学校から帰宅途中に、「おかえり」と言ってくれるおばちゃんが居たり、自分から積極的に挨拶をしていました。これからもそういった、相手に対する思いやりを思い出す場所であってほしいです。

そのためには、人口増加への取り組みが欠かせないと思います。私が意外に感じたことは、都会の人の中には田舎の長閑な雰囲気が好きな人が多いということでした。

例えば廃校となる校舎を宿泊施設にして、主に小学生のいる家族をターゲットにしたイベントを開催するのはどうでしょうか？校舎に泊まるのは大人にとって子ども時代を懐古する貴重な体験となるのではないのでしょうか。

#今このタイミングで

このように周防大島を認知してもらうことから始め、そこから徐々に興味をもってもらう形が私が今思いつく人口増加の方法です。人口問題はどうしても成果がすぐに出ないため後回しにされがちです。ですが、この問題を次の世代に引き継いでしまっていないのでしょうか。

時間がかかる問題だからこそ、たった今この瞬間が取り組むためのベストなタイミングだと思います。

外から目線で